

PORTA DI FIORE

第	2
号	2014 8月

発行 フィオーレ・オペラ協会 発行人 西 正子

2013年度市川市民芸術文化奨励賞を受賞

フィオーレ・オペラ協会会長 西 正子が 2013年度「第6回市川市民芸術文化奨励賞」を受賞しました。この賞は芸術・文化の分野において業績をあげた市川市ゆかりの芸術家を市民の手で表彰し、共に市川の芸術文化を育てていこうというものです。

1997年に創設された「市川市民文化賞」の理念を受け継ぎ、2008年新たに「市川市民芸術文化賞、文化奨励賞」として制定されました。フィオーレ・オペラ協会の活動が、地域の芸術・文化に貢献したと評価されたことになり、たいへん名誉なことです。

2013年11月19日 贈賞式が行われ、ヴァイオリニストの立田祥子氏、フィオーレ・オペラ合唱団とともに、「乾杯の歌」(ヴェルディ作曲 オペラ「椿姫」より)を演奏しました。



※贈賞式 左端が西 正子会長※

受賞記念インタビュー

聞き手 高橋 弘行(フィオーレ・オペラ合唱団テノール)

高橋 おめでとうございます。

西 ありがとうございます。

高橋 市川市の芸術、文化に貢献した方が受賞される賞ということで、西会長と市川市との関わりについて教えてください。

西 市川市に移り住み、7年前にフィオーレ・オペラ協会を立ち上げ、2008年から市川文化会館で毎年本公演を開催しています。フィオーレ・オペラ協会の立ち上げは、同じ市川市在住のヴァイオリニスト立田 祥子さんとの話し合いの中から生まれたもので、私の音楽活動の多くは市川市と関わっているのです。

高橋 この賞は市川市民の推薦によって受賞されるということですが、受賞の知らせを聞いてどう思われましたか？

西 本当にびっくりしました。多くの市民の推薦がないといただけない賞だと聞いていたので、とても驚きました。と同時に嬉しく思いました。正直申し上げて、オペラ公演を市川市で行うのは、都心からの距離等もあり集客等の面で苦勞が多いのです。でも、今回の受賞を機に、来年のフィオーレの本公演を市川市文化振興財団が共催して下さることになり、更に公演を盛り上げることができそうなので、今からとても楽しみです。

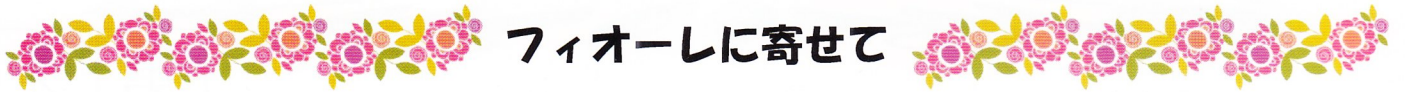
高橋 今後の活動はどんなことに力を入れたいと考えていますか？



※贈賞式 フィオーレ・オペラ合唱団と※

西 一人でも多くの方々がクラシック音楽に興味を持っていただけるよう、今まで以上に質の高い、臨場感溢れるオペラ公演やコンサートを、可能な限り行っていきたくと思っています。お客様、出演者、スタッフ全員が一体となったその空間は得難いものだった、と心に刻まれる作品をお届けできたらと思います。

高橋 ありがとうございます。



フィオーレに寄せて

佐竹 康峰 YASUMINE SATAKE 公益財団法人日本オペラ振興会 理事長



フィオーレ・オペラ協会と私を結びつけたのは友人の秋山修さんである。三年前に会長の西正子さんを紹介された。私も市川市に15年間住んだことがあり、西さんのご自宅と近かったので話が盛り上がった。

団歌(詩)を書いて欲しいと言われ、図らずもお受けすることとした。一週間くらいして、千葉・検見川の大賀蓮一二千年以上も前の地層から発見された種が発芽した古代蓮一をテーマにした「永遠(とわ)のフィオーレ」という詩をお届けした。ご縁はそんな感じで始まった。

ここ数年リーマンショックや東日本大震災など日本経済は厳しい環境が続いた。

折しも私も日本オペラ振興会・藤原歌劇団の経営に関わってきてこの間の公演活動がどれほど大変だったか、フィオーレ・オペラ協会のご苦勞が身に沁みて分かる。まさに同慶の至りである。

さて、藤原歌劇団はお陰さまで今年創立80周年を迎える。昭和9年(1934年)6月7日の日比谷公会堂、藤原義江氏率いる歌手達によってオペラ「ラ・ボエーム」が上演された。昭和恐慌の傷跡冷めやらず、軍靴の足音忍び寄る不穏な情勢下であって、大衆とイタリア・オペラを結ぶ本格



※2012年『椿姫』より※

ラを結ぶ本格

的公演として大喝采を浴びたと記録されている。近年わが国ではオペラの観客層は増えておらず、我々も公演チケットをさばくのに毎回苦勞するが、ただその一方で、大小を問わなければ、オペラは毎週のように日本の何処かで観ることができる。市民オペラ団体は今わが国に何と二百以上も存在しているのである。人は観ることもさることながら、演じることにも喜びを見出したということになる。



※2013年『リゴレット』より リゴレット(須藤 慎吾・左)とマントヴァ公爵(村上敏明・右)※

文豪たちの著した作品を元に作曲されるオペラは、自分が齢を重ねるごとに見方が変わり、観るたびにハッとさせられる。人生の熟成につれて漸く分かって来ることがあるのかも知れない。自らが主人公になって歌い演じれば尚のこと真実に近付くことができよう。そしてまた、皆で一緒に汗を流しながら作り上げるところに喜びを感じるに違いない。古代蓮が咲き誇り、色とりどりの大輪の花のように、フィオーレ・オペラ協会も今後さらに活動の幅を広げられることを期待しているし、皆さんが研鑽を積まれて一層質の高いオペラにチャレンジされ、舞台を飾られんことを楽しみにしている。



※2013年『リゴレット』より リゴレット(須藤 慎吾)※



村上 敏明 TOSHIAKI MURAKAMI テノール



皆さん、こんにちは。テノールの村上敏明です。

フィオーレ・オペラ協会とは、2010年10月にエドガルド役を歌った、「ルチア」からのお付き合いになります。以来、「イル・トロヴァトーレ」マンリーコ、「仮面舞踏会」リッカルド、「椿姫」アルフレード、「リゴレット」マントヴァ公爵と、私の主要レパートリーの多くを歌わせて頂きました。

この原稿を書いている現在も、「こうもり」アルフレード役の稽古真最中で、フィオーレ・オペラの皆さんと楽しい毎日を送っています。西正子さん率いるフィオーレ・オペラ協会は、質の高い適材適所のキャスティング、すばらしい音楽スタッフ、舞台監督の山本勝巳さん他にご協

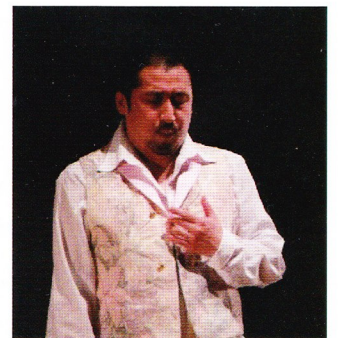
力を頂いている豪華な舞台セットや背景映像・字幕、メイク・衣装担当の皆さん、歌唱・演技ともにアマチュア合唱団としては最高レベルと思われる「フィオーレ・オペラ合唱団」の皆さん、副団長の立田祥子さん率いるオーケストラの皆さん等、オペラ団としてのすべての条件が整っています。既成のオペラ団体の枠にとらわれず、様々なアプローチで活動の幅が大きく広がっていますが、これからも益々発展していくことと思います。

西正子さんの八面六臂の活躍は、その素晴らしい歌声はもちろんの事、多くの人を惹きつける懐の大きさ、「人間力」によるものと思います。オペラ団の様な大きな組織にありがちな大小のイザコザは、ここではまったく見ることなく、皆さん常に笑顔で和気あいあいな雰囲気にはれています。(音楽的な、お互いの強い主張は必要ですが。)これこそ「オペラ」を作る時に一番必要となるもので、そういう意味でも、フィオーレ・オペラ協会は理想的な「コミュニティ (=共同体によるオペレーション=オペラ)」です。

また副団長の立田祥子さんの存在も忘れてはいけません。オーケストラのコンサ



※2013年『リゴレット』より マントヴァ公爵 左は田村佳子) ※



ート・ミストレスと

してのまとめ役だけではなく、オペラ団を陰から支えて下さっています。私は、このような素晴らしいオペラ団に関わることができ、とても幸せに名誉に思っています。

今後とも、微力ながらフィオーレ・オペラ協会の更なる発展のお手伝いが出来ればと思っております。これからも、フィオーレ・オペラ協会をみんなで盛り上げて行きましょう。



※2013年『リゴレット』より マントヴァ公爵 左はボルサ (高柳圭) ※

福原 耕二 KOJI FUKUHARA チェロ



私のオペラとの出会いは、2007年衣装の伊藤和子さんに誘われて、「カヴァレリア」の黙り役で舞台にのったのがきっかけです。それまでは、オーケストラ曲と室内楽曲などの器楽曲以外の歌ものは、あまり聴いていませんでしたが、うーむ、これまで音楽の中で、オペラはぜんぜん見てなかったかも、ということで、ちょうどそのころ始まったディアゴスティーニのオペラDVDも購読して、いろいろ見始めたのでした。

そうしているうちに、このフィオーレが結成されて、バイオリンの立田さんのおかげで最初の「トスカ」からチェロで参加させてもらえることになりました。そして毎年、いくつかの曲に参加させていただくことで、自分にとってもいろいろな曲を深く知るきっかけになり、大変感謝しております。

オペラの伴奏というのは、比較的短期集中型で、しかもいろんなことが起こって気が抜けないという点でスリリングなところがあります。それがまた楽しみのひとつかもしれません。またチェロには、オペラの終盤にはチェロのソロによって主人公の気持ちを引き立てる場面もよく出てきます。

バイオリンの人には、よくいいとこどりといわれてしましますが、これもチェロの音色が歌の邪魔をしない音域にあるせいかもしれません。特に「トスカ」や「ドンカルロ」、「仮面舞踏会」や「道化師」には3幕ごろに出てくるので、そういったところもぜひ聴いていただければと思います。来年には「ドンジョバンニ」が予定されていて、楽しみにしております。

吉見 世始子 YOSHIKO YOSHIMI メゾソプラノ

子供の頃から歌が好きで、ラジオから流れて来る曲をすぐ口ずさんでいました。高校生の頃は混声合唱の楽しみを覚え NHK 全国コンクールに出たり、やはりいつも歌に浸っていました。

オペラとの出会いは夫と一緒にいったウィーンの国立オペラ劇場！ 席は二階席の“目立ちがり屋”と言われる、バルコニーの舞台に一番近い所の席で、あまりの華やかさに圧倒されました。言葉も解らずただただ感激したのです。演目はたしか“コバンチナ”。

それからオペラにのめり込んでしまいました。“アドリアーナ・ルクブルール”の合唱に出て欲しいと言われ練習に行った先で初めて西さんに会い、その後西さんがフィオーレ・オペラ協会を立ち上げ入団することになりました。

企画力に行動力に次々と精力的に活動され、私はそれに躍らされ予定が入り手帳が真っ黒?! になるほどです。また、合唱のメンバーもそれぞれ素晴らしく皆一つの目標に向かい協力し合い作品を作り上げ、そして本番、一体となりハーモニーが倍音となって響き渡っています。どうかこれからも宜しくお願い致します。

だんだん暗譜するのも一苦労、高い靴を履いて舞台に立つのも大変、(;^^)

でも迷惑にならないよう頑張ります。





本山 明日香 ASUKA MOTOYAMA ソプラノ



創立記念の歌、運動会の歌、卒業の歌・・・と、五歳から付属で育った私の暮らしの中にはいつも音楽が溢れていました。

中学の声楽の授業でピアノの前に立ち「サンタ ルチア」をクラスメイトの前で歌った時、歌うことの心地よさに目覚めたのはその時だったと記憶しています。

フィオーレ初参加は2012年の「椿姫」。西先生の笑顔と感謝を忘れない姿勢、皆で作っていきこう！ という心意気こそが演者を結びつけた、毎度たくさんのお客様にご来場頂ける理由だと思います。

昨年の「リゴレット」では、小姓を演ずる機会をいただきました。

2ページの歌の中で多くのキャストと絡み、生意気に振舞う小姓役は、何と特別でありたいことかと、終演後改めて実感しました。あのランナーズ・ハイの高揚感を忘れずに、これからも一つ一つの舞台に真摯に取り組んでいきたいと思えます。

小川 博 HIROSHI OGAWA バリトン

はじめてフィオーレ・オペラ協会合唱団の練習に出席したのは2013年の4月。

今、後悔しているのはその1月に参加希望を連絡したのに「リゴレット」に出演しなかったこと。並みの市民オペラなら、生涯に一度きりしかないかもしれない貴重な公演に向けて、難しい歌詞を落とさないように悲愴な取り組みをしている時期。

とても無理と思いました。フィオーレが並みじゃないってことをまだ知らなかったから。特上？いや「お好み」かな。

どこでも何度でも、あるものは活用し、なくたってかまわない。重ねるほどに練れていくのは、練習の合間に秋山さんからいただく羊羹のよう。

「こうもり」はたぶん舞台に笑顔で立っていられば、出演資格ありですよ。皆が一度に同じ言葉を言うなんて、かえっておかしいでしょう。

オペラは悲劇？ フィオーレで経験したのはまだ宴会シーンだけ。臨時の「椿姫」だって合唱は宴会。

これでえーんかい？ つい「こうもり」に染まっている自分がこわい今日この頃。



高橋 弘行 HIROYUKI TAKAHASHI テノール



親譲りの無鉄砲で子供の時から損ばかりして居る。

高校の時、生徒会長選の立候補演説で、一言も発せず、さだまさしの「天までとどけ」を歌ったらバカ受け一発当選。ただし立候補者は僕一人でした。

これに気をよくした高校の音楽の先生（東京芸大音楽科卒）に「歌で身を立てたい」と言ったら僕の顔をじーっと見つめて、「勉強がんばりなさい」と言われました。

でもそんな無鉄砲の噂が聞こえたのか、同級生（合唱部の部長）が「うちの部に入って、市が主催する第九と一緒に歌わないか」と誘ってくれましたので、「4人の中の一人（つまり第九のソリストのことですね）ならいいよ」と言ったら、彼も僕の顔をじーっと見つめて「受験頑張ろう」と言って去って行きました。

あれから30幾年。

いつの間にか合唱団にいらていただき、若かりし頃の傍若無人ぶりに、今になって赤面&悶絶する日々です。練習についていけるか心配ですが、どうぞ宜しくお願い居致します。



RELEASE



フィオーレ・オペラ協会の団歌 “^{とわ}永遠のフィオーレ” が誕生しました

このたび、北門 笙さんの詩、永竹 由幸さんの作曲、福本 純也さんの編曲により、フィオーレ・オペラ協会の素晴らしい団歌“永遠のフィオーレ”が完成しました。ここにご紹介いたします。

永遠のフィオーレ

詩：北門 笙
作曲：永竹 由幸
編曲：福本 純也

Vo. 

せんねんーの ねむかーら 目をさましたフィオーレ ①まほーのーから
②ひめぐとーを

Vo. 

はずしたーら ときいろの はごろもよ くらい じかん なれすぎたの
うちあけーて あなたへの せっぶんを

Vo. 

そらが まぶしいわ つきをまっ てよつ ゆにぬれ ひとときの ゆめじ へ

Vo. 

ときの ふーねに はこばれー いまどいたフィオーレ どおきひーの

Vo. 

たびだちーに かわされた やくそくよ うたうよーに いのるよーに この うでを

Vo. 

かかけ おどるよーに さげぶよーに この むねをそらす くらい じかん

Vo. 

なれすぎたの そらが まぶしいわ つきをまっ てよつ ゆにぬれ

Vo. 

ひとときの ゆめじ へ - へ -

永遠のフィオーレ

北門 笙

千年の眠りから
目をさましたフィオーレ
魔法の殻はずしたら
朱鷺色の羽衣よ

暗い時間なれすぎたの
空がまぶしいわ
月をまって夜露にぬれ
ひとときの夢路へ

時の船にはこばれ
今どいたフィオーレ
遠き日の旅発ちに
かわされた約束よ

うたうように
いのるように
この腕をかけた
おどるように
さげぶように
この胸をそらす

暗い時間なれすぎたの
空がまぶしいわ
月をまって夜露にぬれ
ひとときの夢路へ

千年の眠りから
目をさましたフィオーレ
秘め事をうちあけて
あなたへの接吻を

“永遠のフィオーレ”について

秋山 修 OSAMU AKIYAMA フィオーレ・オペラ合唱団テノール

2012年の2月頃、フィオーレの会則ができて暫くして、そうだ！フィオーレにも団歌があった方がいいなと思いました。

詩はすぐに佐竹康峰君のことが頭に浮かびました。佐竹くんは日本オペラ振興会理事長で「北門笙」というペンネームの詩人なのです。ぼくは佐竹君とは仲良しでしたので、早速電話をしたらすぐに快く引き受けてくれました。あつという間の一週間ぐらいで書いてくれました。とても綺麗な詩でした。

作曲もすぐに永竹由幸さんの名前が浮かびました。永竹さんは、当時日本ヴェルディ協会の会長で、クラシックの“辞典”のような人でした。「誰か若い作曲家に作曲をお願いして貰えませんか」と言うと、快く引き受けてくれました。4月の中端、永竹さんから「できたので、取りに来て」という電話があり、ぼくは自宅に取りに行きました。ぼくは楽譜が全く読めませんので、できた曲を西さんに見せたら、西さんは「曲の最後の所が短調になっているので、長調に変えて貰ってください」と言われました。ぼくはホーッ、そういうものか、音楽家ってのは見ただけですぐ判るんだと感心し、永竹さんに「最後の所を長調に変えて欲しいんだって」と言うと、「あ、いよ、わかった」とこれ又すぐ判るのでした。

しばらくして永竹さんが入院したというので「看護師さんを本気で口説くんだよ」などと電話で激励をしました。5月になり、永竹さんの事務所から「永竹が亡くなりました」と電話があり、あまりの突然のことに驚き絶句してしまいました。でも団歌のことも気になっていたので「団歌を若い作曲家にと、永竹さんをお願いしていて・・・」と言うと「あれは永竹自身が作曲したんです。団歌は永竹の遺作です」と言われました。

この年音楽界は、永竹由幸さん、吉田秀和さん、畑中良輔さんの重要な3人を立て続けに亡くしました。

編曲はバークリー音楽大学を首席で卒業して、ジャズの演奏をしている非常に優秀な音楽家、福本純也君に頼みました。詩：北門笙、作曲：永竹由幸、編曲：福本純也、この素晴らしい人達からなるフィオーレ・オペラ協会の団歌、練習するのが楽しみです！

団員募集

あなたもフィオーレ・オペラ合唱団の団員になって舞台上歌ってみませんか？臨場感溢れる感動が得られます。素晴らしい仲間が待っています。定期練習は毎週一回。団費は年2万円です。ぜひ下記にご連絡下さい。

・・・フィオーレ・オペラ協会事務局・・・

〒272-0822 市川市宮久保1-33-6 TEL/FAX 047-371-0921

メール fiore.opera@ab.auone-net.jp

ホームページ <http://fioreopera.org/>

フィオーレ・オペラ協会後援会のご案内

お問合せ、お申込みは事務局長秋山修まで。TEL 090-4733-7527

お振込先：みずほ銀行 本八幡支店
(普)1116367 フィオーレオペラキョウカイ

フィオーレ・サポーターズクラブ（個人）

●年会費 1口5,000円（学生は2,500円）

●特典

- ・主催公演についての優先情報提供、チケットの優先予約と20%割引
- ・主催公演のプログラム、ホームページにお名前を掲載（ご希望の方）
- ・会員限定のプライベート・コンサートへのご招待

協 賛（法人）

1口 20,000円（公演パンフレットへの広告1/8ページ掲載等）

50,000円（公演パンフレットへの広告1/2ページ掲載等）

100,000円（公演パンフレットへの広告1ページ掲載等）

フィオーレ・オペラ協会 2013, 2014 年の活動

■主催公演

☆2013年4月13日(土)サントリーホールブルーローズ チャリティー公演

オペラ「リゴレット」(全3幕)

出演:須藤 慎吾,西 正子,村上 敏明 他 ピアノ:田村 ルリ フィオーレ・オペラ合唱団

☆2014年3月30日(日) 須藤慎吾 CDデビュー記念オペラ・コンサート

オペラ「電話」(全1幕)他

出演:須藤 慎吾,西 正子 ヴァイオリン:立田 祥子 ピアノ:伊藤 亜紀 フィオーレ・オペラ合唱団

☆2014年4月19日(土) サントリーブルーローズ チャリティー公演

オペレッタ「こうもり」(全3幕)

出演:押川 浩士,須藤 慎吾,西 正子,村上 敏明他 ピアノ:田村 ルリ フィオーレ・オペラ合唱団

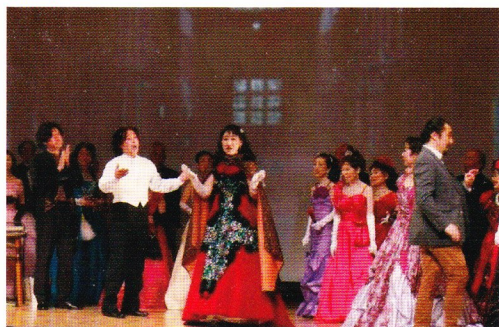
☆2014年7月12日(土) 銀座 王子ホール 須藤 慎吾 CDデビューリサイタル

指揮:仲田 淳也 フィオーレ・オペラ管弦楽団 ピアノ:伊藤 亜紀 出演:須藤 慎吾

司会:若林 正人



※須藤 慎吾CDデビュー記念コンサート
(コンサートミストレス 立田 祥子)※



※2014年『こうもり』※

■共催公演

☆2013年度千葉商大オペラ講座 (全5回)

- ・5月25日 ベルカント・オペラの饗宴 出演:村田 耕太郎,田村 佳子,堀江 磨、西 正子 ヴァイオリン:立田 祥子,チェロ:福原 耕二、ピアノ:伊藤 亜紀
- ・6月8日、6月29日:オペラ「リゴレット」 出演:高柳 圭、大川 博、押川 浩士、西正子、田村 佳子、丸山 奈津美 他 ヴァイオリン:立田 祥子、チェロ:福原 耕二、ピアノ:伊藤 亜紀
- ・7月13日、7月27日:オペレッタ「こうもり」 指揮:仲田 淳也
出演:押川 浩士、田村 佳子、西 正子、鶴川 勝、森 真奈美他
フィオーレ・オペラ管弦楽団、フィオーレ・オペラ合唱団

☆2013年8月11日(日) オペラ「椿姫」神奈川県立音楽堂 指揮:大浦 智弘 オーケストラ:ERDE OPERA 管弦楽団、フィオーレ・オペラ合唱団

☆2013年10月27日(日) オペレッタ「こうもり」第2幕 市川グランドホテル 出演:押川 浩士、西 正子、田村 佳子他
フィオーレ・オペラ合唱団 ヴァイオリン:立田 祥子、フルト:寺本 純子、ピアノ:伊藤 亜紀

☆2014年2月23日(日) オペラ「フィガロの結婚」東京文化会館小ホール 主催:モーツァルト協会

出演:須藤 慎吾、山口 佳子、小山 陽二郎、向野 由美子、西正子他 ピアノ:田村 ルリ

☆2014年度千葉商大オペラ講座 (全2回)

- ・5月24日、5月31日:オペラ「愛の妙薬」 指揮:仲田 淳也
出演:須藤 慎吾、高柳 圭、田中 大揮、後藤 春馬、西正子他
フィオーレ・オペラ管弦楽団 フィオーレ・オペラ合唱団 ピアノ:伊藤 亜紀

■協力公演

☆2012年11月11日(日) オペラ「リゴレット」公演

アニュッリホール主催;モーツァルト協会



※2014年『愛の妙薬』※

☆フィオーレ・オペラ協会活動予定☆

・2015年1月18日(日)新国立劇場中劇場オペラ『ドン・ジョヴァンニ』(全2幕)

・2015年5月 千葉商大名作オペラ講座

・2015年7月25日(土) オペラ『夕鶴』(全1幕)

・2015年12月オペラ『ヘンゼルとグレーテル』(全3幕)

